

# 2023 年度 西淀川インターナショナルコミュニティー活動報告書

## 目次

1. 団体概要.....	1
2. 2023 年度活動実績.....	2
(1) 学習支援教室.....	2
① 学習支援教室「きらきら」.....	2
② Tabunka Juku “Animo” (たぶんかじゅく「アニモ」).....	3
(2) 「たぶんか相談会」.....	5
① 定例相談会.....	5
② 特別相談会「たぶんか高校進学セミナー2023」.....	5
(3) 地域の交流行事.....	6
3. その他.....	6
・ イベント.....	6
・ 講演.....	7
・ 主な連携団体.....	7

## 1. 団体概要

西淀川インターナショナルコミュニティー (Nishiyodogawa International Community、通称 NIC) は、大阪市西淀川区に暮らす外国人住民、特に外国にルーツをもつ子どもへの育成支援を、外国人と日本人が協働して取り組むボランティア団体。

- 外国につながる子どもの学習支援教室
- 外国人住民向け生活相談会の開催
- 地域交流イベント開催

を実施している。詳細は以下を参照。

URL: <https://nishiyodoic.net>

facebook: <https://www.facebook.com/Nishiyodogawa.IC>



西淀川インターナショナルコミュニティー  
Comunidad internacional de Nishiyodogawa

## 2. 2023 年度活動実績

前年度に引き続き、公的機関や地域での連携と支援協力を得て、子どもを中心とした外国人住民の方への支援を行った。西淀川区役所、出来島地域の小・中学校、淀中学校区学校元気アップ協議会、大阪市教育委員会人権・国際理解G 第一共生支援拠点「らんまん」、西淀川こどもネット、出来島商店会等との連携が得られ、子ども支援の原動力となる組織的な連携ができた。

団体内の組織編成を改編したことにより、以前より運営がスムーズなものとなった。今年度の編成は、代表・副代表、7名の運営委員、8名のアドバイザー（外国につながる地域の方々、大阪市共生支援拠点・商店会・地域の日本語学校・大学の研究者等）を総会で承認した。

6月から12月にインターン受け入れ事業を行い、公募により2名を受入れ、たぶんか高校進学セミナーの進行や定例の教室活動を担当してもらうことにより活動運営の強化が得られた。同時にインターン生自身のフィールドワークとして研究を深めることにつながったと考えられる。

### (1) 学習支援教室

#### ① 学習支援教室「きらきら」

- ・外国にルーツを持つ小学生対象の居場所と学習支援の場
- ・43回開催、のべ364名の小学生参加、登録20名  
(ペルー、ブラジル、フィリピン、スリランカ、ネパール、ベトナム、中国 ルーツ)
- ・大阪市ボランティア活動振興基金、大阪市こどもの見守り強化事業補助金、西淀川区子ども・子育て支援のための基金を活用して運営した。

2022年度に引き続き、毎週月曜日 16:00～17:10 に活動を実施した。

教室での活動においては、コーディネーターを中心とする支援スタッフが基本的にマンツーマンで子どもたちに付き、漢字や算数のドリル等、学校の宿題をサポートしたほか、教室で準備している教材プリントやタブレット端末、本、カード、等を活用し、それぞれの子どもの興味関心に合わせた学習をすすめることができた。



学習風景↑

教科学習だけでなく、季節のイベントに合わせた装飾づくりをする時間、低学年児童を中心に折り紙、お絵描き、かるた等のゲームをして楽しむ場面もあり、子どもたちの居場所としての機能も果たした。

参加した子どもたちの大半は日本生まれ、もしくは幼少期に来日しており、日本語での会話は流暢であるものの、在籍学年の学習内容の理解が追いついていないケースもあり、教科学習の伴走が必要であった。生活面や心理面でのサポートが必要と思われる場合もあり、子どもたちひとりひとりに寄り添った対応が求められた。また、学年相当の学力、特に中学校

進学までに基礎学力を習得してほしいという支援者の声も根強く、今年度は 8 月以降に高学年の児童へのサポートに力を入れた。

支援者は、引き続きスペイン語、英語等での会話ができるメンバーと、日本語指導の資格を持つメンバーの参加でそれぞれの特色を生かして子どもや保護者への連絡、状況の把握や初期日本語指導などのコミュニケーションをとりやすい状態が維持できた。ボランティアは必ずしも小学校教育の専門家ではないが、教室にある様々なリソースを活用したり、子どもの学習内容について下調べや工夫をして、教材を準備するなど熱心に取り組んできた。また、学習支援に留まらず、学校への迎えやきらきらでの学習終了後の見送り、地域の子ども支援団体からの提供による食品等の配付の補助をはじめ様々な側面で協力が得られた。食品配付の際にはムスリムのハラール食品の購入・配付を通して多文化への理解を深めることができた。ボランティア以外に大学生・大学院生のインターン参加や大阪大学からのフィールドワーク実習参加もあり、子どもたちが新鮮な気持ちで参加できた。

地域や家庭とのつながりについて、西淀川区役所や小学校とも引き続き連携をとり、より支援が必要な子どもについて情報交換ができた。児童の送迎、情報共有のための学校訪問、学校の先生方による教室見学を通し、協力体制を継続出来た。低学年の児童参加が多くなり、送迎で教室を訪れる保護者が多くなったことで、子どもについての情報共有や地域のイベントの案内など、以前より保護者への情報提供の機会が増した。また、きらきら、たぶんかじゅくアニモとも同様であるが、昨年度に続き「西淀川こどもネット」の一員として日頃の情報交換やイベント運営への協力参加等を通して食品や学用品提供を受け子どもの生活面での支援につながった。

## ② Tabunka Juku “Animo”（たぶんかじゅく「アニモ」）

- ・外国につながる中学生等の居場所と学習支援を行い高校進学へのサポートを行った。
- ・76 回実施、のべ 188 名の中学生・ダイレクト受験生が参加 登録 12 名 支援者 17 名
- ・生徒のルーツ：ペルー、フィリピン、ネパール、スリランカ、ベトナム、中国
- ・大阪市塾代助成事業・大阪市こどもの見守り強化事業・教職員福祉財団助成金、中辻創知社助成金などを活用して運営した。

日本で生まれた子、保護者の母国と日本を何度か移動してきた子、渡日間もない子、ダイレクト受験生（母国で 9 年間以上の就学後来日し、高校受験を目指す生徒）の子、と環境や生育状況の異なる生徒たちが参加した。



先輩支援者と↑

高校受験においては、2023 年 9 月公立高校秋季選抜、2024 年 2 月公立高校日本語指導が必要な生徒・外国人生徒選抜、私立高校専願・併願、2024 年 3 月公立高校一般選抜でそれぞれに努力を重ね、受験生は全員合格できた。ここ数年の特徴として進学先が公立のみではなく私立高校への増加傾向がみられる。また、学校に行きづらい子、家庭内で課題を抱える

子について区役所こども福祉担当との連携が今後も引き続き必要である。受験そのものに行きつかない例も見られ今後の課題の一つである。

地域での連携により学習支援の場所を定例に加えてダイレクト受験生等対象の場所を2か所設定した。ゆうせいホールでは、英語・数学・日本語を中心とした定例の学習支援とし、学校の宿題、定期テスト対応、英検対策等も適宜支援した。

ダイレクト受験生対応は、ゆうせいホールでの学習に加えて、西淀川区役所、健康友の会柏里様のご協力により学習時間を週3回（7時間）確保した。区役所、健康友の会では、学校に位置づいていないダイレクト受験生のために朝の時間帯を学習時間帯として設定した。

区役所では、～にしよどグッドスタート for ハイスクール～Nishiyodo Good Start for high school～として共創事業となった。

<https://www.city.osaka.lg.jp/nishiyodogawa/page/0000600485.html>

ダイレクト受験生には、日本語の4技能は全くできない状態から、当塾開発教材、「半年で学ぶ日本語学習教材『JAPANESE 2015』」を使用して日本語教師有資格者によるチームで支援した。

17名の支援者の構成は、大学院生、元当事者大学生、日本語教師、語学教師、元中学校・高校教員、個人塾講師、ライター、等々指導経験の豊富な面々がシフトを組んでそれぞれの持ち味を活かして子どもに寄り添い熱心なサポートがなされた。

特に、元当事者大学生の支援のことは子どもたちにとって説得力のあるものであった。その他にもインターン生、大阪大学からのフィールドワーク生の参加は、子どもたちにとって良い刺激となり支援者との意見交換も意義深いものであった。

学習支援後は、ミーティングを経て記録アプリへの入力で支援内容を共有し、それぞれの支援に活かしてきた。年2回は子どもの学習は休みとして支援者ミーティングを行い課題共有と意見交換により支援内容を深めた。

今年度はダイレクト受験生の参加が少なかったため、前年度から予定していたダイレクト生支援のガイドブック <https://nishiyodoic.net/direct-examinee-handbook/>を制作し、日本語教材の活用方法についても整理を行うことができた。

参考：たぶんかじゅくの経緯

2015年、「きらきら」活動開始。当時の子どもの保護者からの強い要望で、2017年9月から（特活）多文化共生センター大阪（当時）が「たぶんかじゅく Huku」を実施。保護者の熱意と協力に支えられブラジルレストラン（当時）を借用し、ブラジル・ペルー・ルーツの中1・中2、計4名から開講。2018年4月以降、毎週月曜日 Tabunka Juku “Animo”（たぶんかじゅく「アニモ」）として、**外国につながる子どもの高校進学を応援する活動**を継続中。

## (2)「たぶんか相談会」

### ① 定例相談会

- ・相談件数：74件
- ・実施時期と場所：毎週月曜日 15:00～16:00 ゆうせいホール
- ・実施対象：きらきら、アニモの保護者中心、一部保護者からの紹介者も含む
- ・担当者：地域に在住のスペイン語・ポルトガル語話者とNICスタッフ
- ・対応言語：ポルトガル語・スペイン語・日本語

きらきら、たぶんかじゅくアニモの保護者を主な対象として、子どもの進路・進学、学習理解についての相談を受けた。生活面では市営住宅への入居等の住居、日本語習得について、滞在ビザの更新等の相談が見られた。その他、子どもの親権についての相談で法律事務所への同行などに対応した。

相談対応を通じて繋がった家庭への生活支援の一助として、2021年8月より参加している「西淀川こどもネット」を通じて、活動に参加する子どもの家庭への、米・トマト・菓子類・学用品等の提供を活用した。

相談者が月曜の午後來室することは無理な場合も多く、相談件数に含まれていないが、地域のキーパーソンの方が受けている病院関係等の相談については負担が大きいなど課題が残っている。

### ② 特別相談会「たぶんか高校進学セミナー2023」

- 目的：外国につながる子どもの高校進学支援。地域の多文化共生の取り組みとし、誰もが差別されず、のびやかに暮らしていける社会作りの一助とする。(実行委員会規約)
- 参加者数合計：90名  
生徒と保護者 36名 (26家族から申込、当日キャンセル7家族) 引率・見学…12名  
支援者 42名 (通訳者、先輩当事者、実行委員会他)
- 実施日：2023年7月30日(日) 13時半～16時半
- 会場：大阪市西淀川区役所 5階大会議室
- 参加費：無料
- 参加した子どものルーツ：ネパール、中国、フィリピン、エジプト
- 主催：たぶんか高校進学セミナー2023 実行委員会



セミナーの様子↑

大阪市立淀中学校、西淀川区役所、淀中学校区学校元気アップ協議会  
大阪市教育委員会指導部人権・国際理解教育G第一共生支援拠点「らんまん」  
西淀川インターナショナルコミュニティー(事務局)

実行委員会主催3年目となり、これまでの区役所・学校・民間ボランティア団体等との協働体制の継続により、情報が必要な外国につながる子どもと家族のニーズに対応できた。たぶんか高校進学セミナー開催の内容や実施状況に関心を持って参加される支援者の参加が増してきているという傾向もみられる。

参加申し込みした子どものうち約 30%は日本生まれか日本生まれに近い状況の子どもたちであり、当初の目的を果たしてきていると言える。が日本生まれの子どもの中には、本人のみの参加も数人見られ、保護者への浸透は今一歩であった。今後、毎回好評を得ている先輩当事者の多文化ユースからの発信と、具体的な高校紹介等をさらに検討して内容充実を図りたい。

昨年につき、特別相談会のうち、健康相談会、法律相談会は開催できなかった。

### (3) 地域の交流行事

開催されなかった。

## 3. その他

### ・イベント

12/16 インターナショナルチャリティーパーティーを開催した。出来島商店会様ご協力により西淀川インターナショナルコミュニティで、フィリピン、ベトナム、中国、ペルー、ハラール、わたがし等多文化なお菓子を楽しむ会を開催した。子どもや保護者など 31 名が参加した。(ブラジル、ベトナム、フィリピン、ペルー、中国、日本)

3/25 たぶんかじゅくアニモの学習者対象の進学進級お祝い会を実施し、参加者のスピーチとペルーのピニャータを体験した。23 名参加 (高校に進学する生徒、中学生、中学に入学する児童、支援者、中学校の担任の先生、区役所こどもサポート担当等)

以下の見学者があった。

立命館大学研究員、大阪外国人相談支援センター、英風高等学校生徒、西淀川区子ども福祉担当学校教育支援子どもサポートネットスクールソーシャルワーカー、しなやか&CO、堺市役所人権研修グループ、大阪市立天満中学校夜間学級、大阪市教育委員会、子ども食堂とっと、子ども食堂くるる、西淀川子どもセンター、大阪大学合同授業フィールドワーク生、淀川区役所、大阪市立十三中学校、白頭学院建国高等学校等



見学者との話 ↑

以下の取材、新聞掲載があった。  
 大阪市ボランティア市民活動  
 センターからの取材  
 COMVO2024年1・2月号に掲載



COMVO 掲載内容 ↑

・ 講演

- ・ 8/24 「コミュニティにおける外国にルーツをもつ子どもの支援と課題ーボランティア団体の立場から」(坪内)、在住外国人の保健・医療を考える会、オンラインにて
- ・ 12/2 「外国にルーツを持つ子どもの現状と課題」(坪内)、大阪大学外国語学部・人文科学研究科(外国学専攻)授業、大阪大学にて
- ・ 1/21 「日本生まれの子を含む高校進学情報の提供~行政・中学校等による実行委員会が主催して~」(坪内)、第23回高校進学・進路ガイダンス主催者全国交流会 in 関西、関西国際大学にて
- ・ 2/16 「外国にルーツを持つこどもたちとの関わりを通した地域の居場所づくり」(坪内)、令和5年度 第6回 地域こども支援団体連絡会、社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア・市民活動センターにて

・ 主な連携団体

西淀川区役所、淀中学校、淀中学校区学校元気アップ協議会、大阪市教育委員会人権・国際理解教育G 第一共生支援拠点「らんまん」、地域こども支援ネットワーク、西淀川こどもネット、健康友の会柏里、ゆうせい薬局、Minami こども教室(相談役として坪内参加)、子どもの夢応援ネットワーク※

※こどもの夢応援ネットワークとは→2016年～「マイノリティ性をもつ子ども・若者の教育や就労を支援する人たちのネットワークづくり」を目的に、地域で活動している団体、個人が集まって結成。それぞれの団体や個人が単独では進められないことや難しいことも、少しずつ課題解決に挑戦している。

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/kodomonoyume.ouen.nw/>

今年度もご寄付ご協力等頂戴し誠にありがとうございました。

**西淀川インターナショナルコミュニティー (NIC)**

本 部：大阪市西淀川区福町2丁目3-35 サリサリストア内

URL：<https://nishiyodoic.net> Email：nishiyic@gmail.com

事務局：一般財団法人ダイバーシティ研究所

URL：<https://www.diversityjapan.jp/>

2023年度活動報告書

2024年5月発行